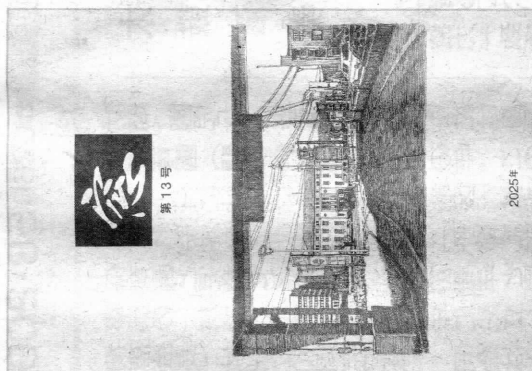


同人誌「窓」第13号発行

三澤勝衛と 藤森賢一の 功績を紹介



発行した同人誌「窓」第13号。
多分野にわたる20作を収録



天文小屋で観測する藤森賢一(1968年)三澤勝衛提供

同人誌「窓」を発行する「窓の会」(三井夏海発行人)は小説、随筆、研究、ドキュメンタリーなど20作を収録した第13号(168頁)を発行した。旧制諏訪中(現諏訪清陵高校)の教師を務めながら太陽観測の国内先駆者・三澤勝衛(1885〜1937年)諏訪市小和田の自宅に設置した観測装置で、太陽の黒点やプロミネンス(紅炎)を観測した藤森賢一(1935〜2024年)の功績を紹介。その上で近年、2人の科学文化遺産に光を当てる市民科学プロジェクトなどの団体、専門家の活動に注目した随筆「市民科学の文化をひろく」を発表している。

同人誌は「多様性こそ生命の源」をテーマに活動。同誌を創刊した故市川一雄の小説「と川石人語り」を上演する俳優遠藤豊吉さん(岡谷市)を、三井発行人がインタビュアー。「役者が演ずることのもひとつの表現」とし、遠藤さんが強い意志を持って一人舞台に立つ思いを探っている。

「市民科学の文化をひろく」は、諏訪市出身の梶見養美さん(東京都在住)が執筆。昨年5月、茅野市八ヶ岳総合博物館で「フタナリウム番組「あの夏の太陽が教えてくれたこと」」が公開された。三澤は同校に在職中、左目が失明するまでの13年余、藤森は農業の傍ら68年間、克明に観測を続けた様子を物語っている。

当時観測したデータは、近年になって早川尚志名古屋大助教、長野県は宇宙県連絡協議会などによりデジタル化、分析が行われた。その結果、データが少なかった当時において貴重な資料であることが検証された。梶見さんは「地域の人たちと共に、眠っていた科学文化遺産に光を当て、フタナリウム作品へと仕上げた同博物館の手腕、長野県天文文化研究会など地道に市民科学を調査する関係者に焦点を当てたかった」と執筆への思いを語った。

頒布900円。問い合わせは三井発行人(電話090・85888・0543)へ。取次書店は諏訪市の真事堂(電話090・7567・0766)、諏訪書店(電話0266・52・5340)へ。(宮坂早苗)